

大麦の出穂後の気温はやや高く推移しており、今後は平年並みからやや高く推移すると予想されています。

事前に「雑草種子や異物の除去」及び「被害粒の発生確認」を行なうとともに、適期の収穫に努めましょう。また、コンバインや乾燥機の清掃を徹底し、粃など異種穀粒の混入防止に努めてください。

## 1. 雑草種子や異物の混入防止

- ・ カラスノエンドウは早めにほ場を巡回し、莢が黒くなり、はじける前に取り除きましょう。
- ・ 金属やプラスチック片などの混入防止のため、ほ場周りにゴミなどが落ちていないか事前に確認し除去しましょう。



## 2. 被害粒の混入防止

- ・ 大麦の農産物規格では赤かび粒等の混入限度は「0.0%」です。収穫物に混入しないよう、収穫の7～10日前頃にはほ場を確認してください。
- ・ 赤かび病等がある場合は、地区担当の営農指導員に連絡していただき、赤かび病等が健全粒に混ざらないよう収穫は別扱いしてください。



赤かび粒

穂首で屈曲した穂がほ場の半分程度の頃

## 3. 大麦の収穫時期の目安

- ・ 大麦の収穫時期は、平場では出穂の早いところで5月29日頃から、山手では、これより5日程度遅いと予想されます。
- ・ 刈取りは、穂軸や茎、葉が完全に黄化し、子実水分が30%以下となった頃から開始してください。

